

チンロンとお祭り

仏教の祭りのパフォーマンス としても大人気

仏教国であるミャンマーでは、仏塔の祭りの場でもチンロンが披露されます。多くのチームが祭りに参加し、選手6人が円陣を組んで、素晴らしいパフォーマンスを繰り広げます。そのようなパフォーマンスの場では、選手たちのプレイに合わせてサインワインと呼ばれる楽団による、チンロンの音楽の生演奏がおこなわれます。

仏塔の祭りの中で披露されるチンロンの大会を「チンポエ」と言います。「チン」はチンロン、「ポエ」は祭りを表しています。

ミャンマーで最も有名なチンポエは、「ワーゾチンポエ」です。「ワーゾ」とはミャンマー暦の4月のことで（日本ではだいたい7月頃）ミャンマー仏教徒にとっては宗教的に重要な月とされています。



ワーゾチンポエは、ミャンマー中部のマンダレーにあるマハムニ・パゴダ（通称ペヤジー）で行われ、45日間連続して開催されます。毎日、朝9時から夜の12時まで休むことなく、1チーム30分の持ち時間でチンロンのパフォーマンスが繰り広げられます。この大会で最も盛り上がるのが、ワーゾの満月の日（ワーゾラビ）です。ミャンマーでは満月の日は休日なので、たくさんの観客がやってきます。特に夕方から夜にかけては、全国から集まってきた有名選手たちが、入れ替わり立ち替わり登場し、フィナーレでは、有名選手たちによるチームが結成されて最高のパフォーマンスを披露して観客を楽しませます。ワーゾチンポエはワーゾラビの翌日が最終日となっており、この日には、マハムニ・パゴダへの寄進がおこなわれます。

このように仏塔の祭りでおこなわれるチンロンは、僧侶やお参りに来た人々に見せてもてなすとともに、チンロンそのものをパゴダに捧げるという意味もあるのです。 (了)